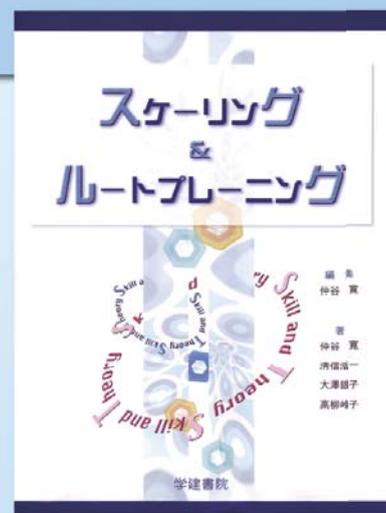


スケーリング&ルートプレーニング

編著 仲谷 寛
著 清信浩一 大澤銀子 高柳峰子

B5変型判 カラー 119頁 定価(本体5,000円+税)
ISBN978-4-7624-0658-4



スケーリングとルートプレーニングをきちんと行うために、そのテクニックと理論を明快に示した手引書。これから学ぶ人だけでなく、歯科医・歯科衛生士の手技の再チェックにも役立つ。多数のカラー写真でたいへんわかりやすい。

- 1 歯周治療におけるスケーリング・ルートプレーニングの位置づけ
- 2 スケーリング・ルートプレーニングを行う際の診査
- 3 歯根の解剖
- 4 スケーリング・ルートプレーニングに用いる器具
- 5 スケーリング・ルートプレーニングのテクニック
- 6 体位
- 7 シャープニング
- 8 スケーリング・ルートプレーニング後の注意事項
- 9 ペリオドンタルメンテナンスにおけるスケーリング・ルートプレーニング
- 10 スケーリング・ルートプレーニングの文献的考察

3 歯軸の傾斜・歯列不正

歯軸が傾斜している場合は、その傾斜方向に沿わせてプローブを挿入しなくてはならない。さらに、歯冠の豊隆を考慮してプロービングを行う必要がある。特に、最後臼歯遠心面はプローブの挿入が困難である(図2-6)。さらに、歯列不正、不適合な補綴物や歯石の沈着が認められる場合などにもプローブの挿入方向に考慮する(図2-7)。



図2-6 プロービングにおける歯冠の豊隆の影響

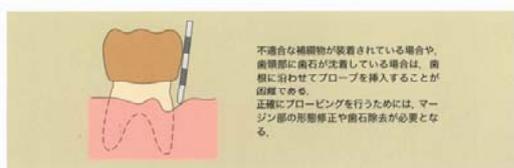


図2-7 不適合冠

上顎前歯

1 唇側

(1) 前方位 8:00 (図6-1)

- ① ユニットをわずかに起こし、患者は顔を正面、もしくは少し右に向ける。
- ② 直接照明、直視。
- ③ 左手の第1指、第2指で上唇を排除する。
- ④ スケーラーの固定点は、当該歯または隣在歯の切縁、または唇側面に、第4指によるフィンガーレストを求める。

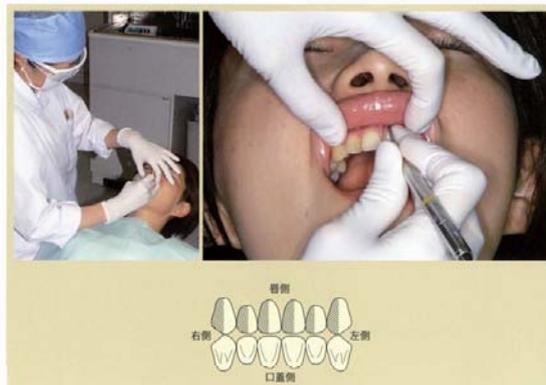


図6-1 上顎前歯唇側前方位